

## 海の生き物を困らせているもの探しとシーカヤック水上散歩

日本ボーイスカウト鹿児島県連盟 理事 西 昌平  
(元鹿児島市医師会病院事務部 参事)

ボーイスカウト鹿児島第18団「スカウトの日\*」プログラムを磯海水浴場で実施しました。今年は、新型コロナウイルスの影響で、ボーイスカウト活動で特に重要なキャンプによる教育・訓練が制限され、スカウトが楽しみにしていた多くのプログラムが短縮や中止となりました。

そのような中での社会奉仕活動の日、何か楽しいプログラムを提供したいと考えて、シーカヤックのプログラムを計画しました。とは言うものの楽しいだけでは社会教育活動の意味がないということで、海岸清掃と海洋ゴミに関する学習を取り入れることにしました。

シーカヤック借用打ち合わせの際、海のゴミを入れる「拾い箱」が目にとまり、今回のテーマを「海の生き物を困らせているものを探そう」にしました。

「拾い箱」は4年前に与論島の池田龍介さんが始められた活動で、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で磯海水浴場にも設置されています。

今回は、清掃活動だけではなく、スカウトの身近なところから出るプラスチックやビニールなどのゴミが正しく処理されず、風に運ばれたり、側溝から川を通って海に流れ出て「海洋ゴミ」となり、海の生き物を困らせてしまうという繋がりを学ぶことを目的にしました。

当日の磯海岸は台風10号通過後で砂浜に一



磯ビーチの「拾い箱」  
(MBCホームページより転用)



「拾い箱」の説明と注意事項を伝達してゴミ集め開始  
(MBCホームページより転用)

帶をなす夥しい漂着物で「海のゴミ」は拾い放題の状況でした。参加者に、種類の違うゴミを集めて来ること、いきなり掴もうとせず一度観察してから手を出すこと、液体が入ったものは決して開封しないことなどを伝え活動開始。

子供たちは嬉々としてゴミを集めて回ります。自分の体と同じくらいの発泡スチロールのブイやロープの破片、弁当の空箱や洗剤のボトル、人間ドックなどで使われる検便キッ

\* ボーイスカウトは毎年9月の敬老の日（第三月曜）を「スカウトの日」として全国のスカウトや指導者が地域社会への奉仕活動をはじめとする様々な活動を一斉に展開します。



台風で打ち上げられた「海洋ゴミ」を集めます。  
(MBCホームページより転用)



集めたゴミを分別して「拾い箱」へ  
(MBCホームページより転用)



MBCのインタビュー  
(MBCホームページより転用)



お待ちかねのシーカヤック水上散歩



野元さんの講話

トを見つけた指導者は首をかしげていました。

ものの15分で学習に十分な種類と量が集まり、かごしまカヤックス代表で冒険家の野元尚巳さんに海洋ゴミについて、ご自身の体験や海外の状況などをお話しいただきました。

この後は、お待ちかねのシーカヤック。野元さんのレクチャーと案内で、海上散歩を樂

しました。

この日は、「MBC鹿児島4時」の取材と海と日本プロジェクトの「熱源キャラバン」の訪問もあり、賑やかな活動となりました。活動の様子はMBCのサイトや熱源キャラバンのブログでご覧いただけます。

鹿児島県の「スカウトの日」活動は、各団が活動拠点としている施設や地域で奉仕活動を行っていて、磯海水浴場の清掃は本願寺鹿児島別院を本部とする鹿児島第2団が永年継続して実施しています。今年も、後日例年どおり磯海岸の清掃活動が実施されました。ここでも「拾い箱」が役に立ったこと思います。

## &lt;清掃奉仕活動で思うこと&gt;

清掃活動で困ることは、集めたゴミの処理です。清掃工場へ搬入したり、行政の支援を受けて処理することになります。この点「捨い箱」は海に来てその場で見つけたゴミを指定された分別BOXに入れるだけという手軽さで、清掃活動を後押ししてくれるものでした。街中や公園から公共のゴミカゴが撤去され、ゴミは各自が持ち帰るルールが推進されていて、落ちているゴミを拾って片付けるにも捨てる場所がありません。自宅に持つて帰るにも入れ物もない、コンビニのゴミ箱は本来そのための物でもないとなるとゴミを捨うことを躊躇し、見て見ぬふりで通り過ぎることになります。世界に繋がる海岸はもっとひどい状況で、何処からともなくゴミが流れています。流れ着いたゴミを見て少しがっかりしたとき、「捨い箱」が一步踏み出して一つでもゴミを拾ってみようかなという気持ちにしてくれます。

もう一つは「スカウト（子供たち）に大人が捨てたゴミを拾わせるのか」という考えです。

ボーイスカウト教育の中に社会奉仕があり清掃活動もその一つです。20年ほど前、鹿児島地区の加盟団は照国神社を出発して、天文館など繁華街を通りドルフィンポートに集まる複数のコースを設定してゴミ拾い清掃活動を行っていました。

当初は30ℓの袋で50個余りのゴミが集まるほどでしたが、街のゴミ対策や民度の向上でポイ捨てが減ったのか、年々奉仕活動で集まるゴミの量は減少して行きました。ゴミが減ったことは良いこととする一方、活動に際して常に指導者からは「天文館で大人が捨てるタバコの吸い殻や風俗のチラシなどを子供がひろい集める」ことを疑問視する声が上がっていました。「ゴミを拾うことでゴミを捨てない大人になる」をテーマに活動を展開してい

ましたが、天文館の酔っぱらいのゴミを子供達に拾わせることにはやはり疑問符が点滅し続けていました。現在は、所属団がお世話になっている施設や地域で清掃活動を実施する方向に転換していますので、多少この意識は軽減されています。スカウトがゴミを捨う姿を見た人がゴミを正しく処理する意識を持つていただければ、スカウト本人も含め「ゴミをポイ捨てしない人を作る」目的にかなうことだと思います。

海の美化、街の美化を考え、ゴミのことを学ぶ清掃活動は、スカウトだけでなく指導者に取っても学びの多い活動だと感じています。